

小學修身鑑補 卷十一

57
328

大日本教育會館
室 五第
三
五
函
六
架
號
二
冊

不認定等
K120.1
1
11

K120.1

1

11

吉田利行編輯

版權所有

小學修身鑑補

魁玉堂藏版

小學修身鑑補卷十一

吉田利行編

第一孝行

乳哺二年ノ間父母ノ苦勞
其數ヲ知ラズ入學ノ年ニナ
リヌレバ師ヲ求メ道ヲ教ヘ
養ノ習ハシテ徳ノ人ニ勝レ
ンコト願ヒ己ニ有室ノ年ニ
至リヌレバ伉儷ヲ求メ家業

哀々タル父母我

ヲ生ミテ劬勞セリ

詩經

小學修身鑑補卷十一

第一孝行

吉田利行編

哀々タル父母我

ヲ生ミテ劬勞セリ

詩經

乳哺

一年ノ間父母ノ苦勞

其數ヲ知ラズ入學ノ年ニ十

リ又レバ師ヲ求メ道ヲ教ヘ

藝ヲ習ハシオ徳ノ人ニ勝レ

ンコトヲ願ヒ已ニ有室ノ年ニ

至リ又レバ伉儷ヲ求メ家業

小學修身鑑補

卷之十一

尾文館

川井東村
不孝ノ子
ヲ責ムル

ヲ立テ、富ミ榮エンコトヲ謀
リ願ヒ其才徳人ニ優リ仕合
セ善ク榮エヌレバ限リナク
喜ビ眉ヲ開キ若シ又才徳
モ人ニ劣リ仕合セモ人ニ劣
リヌレバ起キ臥シ絶エズ歎
キトセリ父母斯ノ如クノ慈
愛斯ノ如クノ苦勞ヲ積ミテ子ノ身ヲ養ヒ育テヌレバ人
ノ子ノ一身毛一筋ニ至ルマデ父母千辛万苦ノ厚恩ナラ
ザルハナシ翁問答

二 總テ父母一生ノ
營ミ何事カ子ノ爲
メニセ又事ヤアル
六論行義大意

梟我家ニ入ル速カニ之ヲ驅リ出ダセト其人去ラズ怨口
ニ教ヲ乞フ東村乃々責メテ曰ク子ノ斯ニ來ル者ハ足ナ
リ子ノ我ニ告グル者ハ舌ナリ舌ト足トハ皆親ノ遺體ナ
リ遺體ヲ以テ本體ヲ毀シルハ天地ノ容レザル所罪ナレ
ヨリ大ナルハナジト語り畢リテ復タ泣ク其人瞿然トシ
テ地ニ伏シ罪ヲ謝シテ曰ク請フ是ヨリ行ヒテ改メン東
村乃々其父ニ謂テ曰ク令嗣與ニ善ヲ爲ス可シ但不悻ヲ
以テ此ニ至リシナリト其人竟ニ孝行ヲ以テ御里ニ顯ハ
ル

三 父母ノ年ハ知ラザル可ラ
ハルナリ一ハ則以テ喜ビ一
ハ則以テ懼ル論語

三 凡人ノ子タル者
ハ已日ニ長ズル一

③父母ノ齡傾キヌレバ万ノ
 事物憂ク思ヒ給フ故見ルニ
 付ケ聞クニ付ケ朝夕心セワ
 シクシテ不興ニ見エ給フ
 モアリ或ハ老耄シテ氣衰ヘ
 今言ヒタルヲモ忘レ又少

一日ナレバ父母日
 ニ老ユル一日ナ
 ルヲ知ルベシ 同上

シノ事モ悦ビ少シノ事モ悲
 ミテイト愚ニ見ユルモノ
 リ子タル者父母ノ斯ク老イ給
 フヲ見テハ彌カヲ盡シ面
 色喜バシク容顔柔カニ唯父母
 ノ御心ニ適フトウニシテ
 老イノ物憂サフ慰ムベシ 喻草

④シ、リトノエトナ山ハ火山ノ一ニシテ數百年前割裂
 シ時近境ノ市街村落盡ク壓没セリ居民此難ヲ避ント

シ、リトノ
 ノ孝子天
 災ヲ免ル

テ皆財ヲ負擔シテ四方ニ遁ケ奔リケルニアナピアス
 ムヒノモス兄弟ハ財寶ヲ輕シスルニ非レドモ之ヲ顧ミ
 ルニ違アラズ各々父母ヲ負
 ヒテ遁レケレバ人見テ贊美
 セザル者ナシ災害鎮リテ後
 立還リ視レバ家屋押ナヘテ
 壊敗セシニ稀異ナル哉彼兄
 弟ノ通行シテ逃レタル處ノ
 田畑草木ハ天災ヲ免レ依然
 トシテ存在セリ衆皆驚歎シ
 テ是レ天彼等ノ孝心ヲ感ジ
 テ致ス所ト爲シ此地ヲ孝郷

④父母死シテ後ハ
 孝ヲ盡ス一成リ難
 キヲ豫子テ能ク考
 へ後悔ナカラシ
 ヲ思フベシ 童子訓

ト稱シテ今ニ至ルマデ美名ヲ遺ヒリ

④父母病メル片ハ猶更孝養ヲ盡スベシ況ンヤ耳聞エズ
眼見エズ或ハ手足叶ハズシテ其身ノ不自由ヲ苦シミ世
ニ在ル甲斐モナシト死ヲ甘ンズル様ニテイト心細リ見
ユルハ彼ノ方ヨリ言ビ出シ給ハザル内ニ此方ヨリ氣ヲ
付ケ懇ニ事ヘ餘所ニテ聞キシ一或ハ見ンテト打テ解
ケテ物語リシ心ノ憂サヲ慰ムベシ 喻筆

⑤酒醴莫酔スルモ親ヲ強ヒ一壺ヲ嘗メシムル一能ハズ
故ニ其敬ヲ無形ニ致サンヨリハ懼ビテ眼前ニ承クルニ
若カズ心ヲ今日ニ傷マシムルハ意ヲ當時ニ用ノルニ如
カズ 要言類纂

⑤范文正公參知政事トナリ

⑤一タビ失ヒテ再

范仲淹食
時ニシテ
忍ヲ事

普王
ヲ賞スル
話

シ時諸子ニ告ゲテ曰ク吾貪
シキ時汝が母ト吾親ヲ養フ
ニ汝が母躬ヲ爨ヲ執ル而シ
テ吾親甘旨未ダ嘗テ充タザ
リシ今ニシテ厚祿ヲ得タリ
以テ親ヲ養ハント欲スレモ
親在サズ汝が母モ亦已ニ蚤
世ス吾最恨ム所ノ者ハ忍ビ
テ汝が曹ヲシテ富貴ノ樂ヲ
養ケシムルナリ

⑥普王フレデリキ一日其室内ニ居リ鈴ヲ鳴シ侍臣ヲ召
セドモ寂然トシテ應ズルモノナキヲ以テ親ヲ障屏ヲ開

タビ得可ラザル者
ハ父母ナリ人ノ子
タル者之ヲ思ハバ
如何テ孝心ヲ起サ
ルベキ 六諭衍義
大意

キテ之ヲ見ルニ其侍臣ハ椅子ニ倚リテ假寐セリ由テ之ヲ呼ビ起サント近ヅクニ彼ノ袖邊ニ書翰ノアリケレバ之ヲ取りテ披キ見ルニ其故郷ノ老母ヨリ贈レル書ニテ其文ノ大意ニ少許ノ俸金ヲ分與シワガ老身ヲ助クル汝ノ孝愛深ク禮謝ヲ為スト認メアリケレバ王之ヲ見テ深ク其孝心ヲ感シ數多ノ金ヲ與ヘテ之ヲ賞セシト云フ

⑥内ニ在テハ孝ヲ盡シ外ニ在テハ悌ヲ盡シ朋友ノ交リニハ信ヲ盡ス三ツノ者ハ孝ノ至リナリ 塩鉄論

⑥孝子ノ親ニ事フルヤ居レバ則其敬ヲ致シ養フニハ則

⑥父母若シ遠方ニ在サバ則勤メテ信書ヲ致シ其安否ヲ

其樂ヲ致シ病メバ則其憂ヲ致シ喪ニハ則其哀ヲ致シ祭ニハ則其嚴ヲ致ス五ツノ者備ハリテ然シテ後能ク其親ニ事フ 孝經

⑦子若シ遠キニ在テ親病ミ又ト聞キナバ早ク歸リテ介保スベシ又親他境ニ在テ病ミ給ハハ急ギ行キテ介保スベシ 論草

⑧其尊ベル所ヲ敬ヒ其親ムル所ヲ愛シ死ニ事フルト生

問ヒ心常ニ之ヲ思ヒ憂愁戀憶セヨ キヅカヒシタフ

童子習

⑦父母若シ病アラハ晝夜帶ヲ解カズ他事ヲ棄テ、看病

ニ事フルが如リ亡ニ事フル
一存ニ事フルが如クス孝ノ
至リナリ中庸

⑧生ケル之ニ事フルニ禮ヲ
以テシ死スル之ヲ葬フルニ
禮ヲ以テシ之ヲ祭ルニ禮ヲ以テス

弥四郎父
母ノ病ヲ
看護スル
語

⑧彌四郎ハ筑前國夜須郡朝日村ノ農夫ナリ家極メテ貧
シケレモ父母ニ事ヘテ至孝ナリ父母病アレバ衣ハ帯ヲ
解カズ看護具サニ至ル衣類ヲ澣濯シ汚物ヲ洗滌スル一
モ皆自ラ之ヲ爲セリ其父母ヲ喪フニ及テ哀慕殊ニ甚ダ
シク忌日毎ニハ必ズ墓ニ謁
シ家事及ビ村中ノ事ヲ語グ

シ醫藥ノ事ニノミ
心ヲ盡スベシ

六諭衍義大意

⑧凡孝ノ道ハ父母

在生ノ間能ク事フ

ルノミナラズ父母

死シテ後終リヲ慎

ミテ葬ヲ厚クシ

遠キヲ追ヒテ時節

ノ祭り怠ル可ラズ

ル一生ケル人ニ對スルが如
シ久シクシテ去ルニ忍ビズ
其天資篤實ニシテ上ヲ敬ヒ
人ヲ憐ミ親戚ヲ親ミ村中ノ
交リニ至ルマデ恩義ヲ盡ク
サツル一ナシ遂ニ一村ノ風
俗ヲシテ淳厚ニ化セシムル
ニ至レリ其人ヲ愛スルノ至
リ施テ畜類ニ及ビ農事極メ
テ忙シト雖モ未ダ曾テ牛馬
ヲ鞭ウタズ其孝名世ニ隆ン
ナリケレバ藩主黒田氏曩之

ヲ褒賞セラレ遂ニ其所有ノ
田ハ稅役共ニ之ヲ除カレ又
今様ノ曲ヲ作りテ稱揚セラ
ル

夜須の朝日の弥四郎ハ親
ニ孝行盡くすなり牛馬ニ
鞭も當てざり一受持の田ハ作り取

此歌遂ニ九重ニ聞コエ仁孝天皇嘗テ人ヲシテ之ヲ歌ハ
シメ親ク之ヲ和シ給ヘリト嗚呼彌四郎ハ僻遠ノ一農夫
ニシテ其行事終ニ天朝ニ達セシハ豈ニ孝感ノ致ス所ニ
アラズヤ

⑧今人賓朋ノ宴會ニハ必豐潔ヲ務メ水陸ノ殊品ヲ窮メ

然ル後敬ト為スニ至ル乃チ祖宗ノ祭享ニハ多ク苟簡ニ
從フ甚シキ者ハ時ヲ失フテ擧ゲズ晏然自ラ安ニス生キ
テ疎キ者ニハ其歡ヲ結ビ死シテ親シキ者ニハ其報ヲ忘
ル此之ヲ類ヲ知ラスト謂フナリ 言行彙纂

⑧ 夫水ニ源アリ其源ヲ塞ケ
バ則流絶ユ木ニ本アリ其本
ヲ伐レバ則枝枯ル祖宗ハ子
孫ノ本源ナリ本源ヲ棄テハ
何ヲ以テカ昌エン 訓俗遺規

⑨ 父母舅姑ノ教奉厄匪ハ餘
シニ非ザレバ敢テ用フル
莫レ恒ノ飲食ニ餘シニ非ザ

又我身ヲ終ルマテ
父母ヲ思ヒ慕ヒテ
忘ル可ラズ 初學訓

⑨ 父母ノ遺セル衣
服器玩ハ子孫タル
者當ニ之ヲ愛護シ
以テ追慕ヲ忘ルハ

レバ之ヲ敢テ飲食スルヲ莫
レ礼記

一 無ルベシ 言志錄

九子孫タル人吾親先祖ノ事ヲ知ラサルハ疎カナリ死
ヤ父祖ノ善行武功ナドアルヲ其子孫知ラズ知テモ記シ
テ顯ハサバルハ愚ナリ不孝トスベシ 童子訓

第二 寛厚

一 心平ニ氣和ラケハ是已ヲ
處シ人ニ接スルノ要ナリ 初學知要

一 和ヒザレバ以テ物ニ接ス

一 人ノ情性モ我ト
一般ナリ時々體悉
コハロ子

可ラズ嚴ナラザレバ以テ下
ヲ馭ス可ラズ 省心錄

一 忙ガシキ時ハ殊ニ心ヲ鎮
メ言ヲ緩ヤカニスベシ惡シ
キ人ニ對シテハ殊ニ心ヲノドヤカニシ立テ合ハズシテ
用心スベシ大事ニ臨ミテハ殊ニ心ヲ安ク定カニスベシ 秘事記

シテ件々當ニ寛ニ
從フベシ 呂新吾續
小兒語

二 處シ難キノ事ニ處スルニハ愈宜ク寛ナルベシ至急ノ
事ニ處スルニハ愈宜ク緩ナルベシ 羅近溪

二 大任ニ當ラント欲スル者ハ須ク是篤實ナルベシ 程子

二 輕シク言ヒ輕シク動クノ人ハ共ニ深ク許レズ可ラズ喜
ビ易ク怒リ易キ者モ亦然リ事ヲ聞テ喜バズ驚カザル者

ハ以テ大事ニ當ルベシ讀書
二漢ノ張良嘗テ下邳ノ圯上

ニ遊ブ一老父アリ良ガ所ニ
至リ其履ヲ橋下ニ墜トス顧

テ良ニ謂テ曰ク孺子下リテ
履ヲ取り來レト良其老タル

ガ為メニ乃チ下リ履ヲ取り跪キテ進テ老父ハ足ヲ以テ

之ヲ受ク良大ニ驚ク老父去ル一里許復還テ曰ク孺子教

エベシ後チ五日平明ヲ期シ我ト此一會セニ良曰ク諾乃

チ五日平明ニ往ク老父己ニ先ヅ在リ怒テ曰ク老人ト期

シテ後ルハ何ゾヤ去レ後五日早ク會セニ良乃チ鷄鳴

ニ往ク老父又先ヅ在リ復怒テ曰ク後ルハ何ゾヤ去レ

後五日早ク來レ良半夜ニ往ク誓クアリテ老父來ル喜テ

曰ク孺子當ニ此ノ如クスベシト乃チ一編ノ書ヲ出シテ

之ヲ讀マバ王者ノ師トナラント曰ヒ遂ニ去ル良其ノ書

ヲミレバ太公ノ兵法ナリ良之レヲ習讀シ遂ニ高祖ヲ佐

ケテ強楚ヲ破リ天下ヲ定ム

三性氣乖張ノ人ト相處ル正ニ必聲色ヲ厲マシテ之ト是非ヲ辨シ長短ヲ較ベズ惟自ラ修ムルニ謹ミ愈々約ナレバ彼將ニ自ラ服セントス服セザル者ハ妄人ナリ何ゾ馬ニ較セン洗心釋要

二毀譽ハ遠カニス

可ラズ喜怒モ遠カ

ニス可ラズ許衡

三君子ノ事ヲ處スルヤ其神

三教戒規諫スルノ

道ハ迫切ナル可ラ

ズ迫切ナレバ則人

靜ニ氣定マル故ニ從容トシ
テ迫ラズ聲色ヲ動カザズ而
シテ處置精詳ナルヲ得ル
ナリ 慎思錄

セヨセフ
循良四徒
ヲ御スル
話

三英國ニテ罪ヲ犯シタルモ
ノハ法ニ依テ亞米利加ノ或
ル地へ放タレ徒刑トナリ殖
民ニ從フテ其田野ヲ畔シ僅
ノ雇錢ヲ得テ食トス若シ懦
弱乱行ノ一アルキハ箠タル
、ノ例アリ近ゴロコツクス
トト云フ豪農セヨセフホ

ヲシテ念慮シテ服
從スル一能ハガラ
イカル ナツ

シム

子弟ヲ教アルガ如

キモ亦須ク優游以

テ之ヲ閑導スベシ
ヒキタツル

頑ナルヲ怒リ疾ム

一勿レ 慎思錄

ルトヲシテ彼徒刑ヲ督セシ
メシニセヨセフ性質慈善
ニシテ徒刑ヲ役スルニ箠撻
ノ苛法ニ代テ他ノ循良ナル
法ヲ用ヒタルガ徒刑者喜ンデ皆能ク勤動シ課業ノ分ヲ
過ゴシタリ一日一刑徒セヨセフノ物ヲ盜ナルモノア
リセヨセフ徒刑ノ者ヲ屬テ曰ク汝等ノ中ニ盜ヲナセ
シモノアリ彼盜ヲ得ル迄汝等ニ定限外ノ雇錢ヲ與ヘズ
若シ索メウルキハ汝等自カラ罰ヲ加フベシ我元ヨリ箠
タル、人ヲ見ルニ忍ビズト徒刑人皆其温言ニ感ツ幾バ
クモノク盜ヲ得テ之ヲ罰セリ爾後盜及ヒ其他ノ乱行ヲ
爲スモノナク箠ヲ用ルル無キニ至レリトゾ

三 人心ノ同ジカラザルハ其面ノ如シ人毎ニ各心異ナレバ人ノ為ス業我心ニ適ハザルトテ人ヲ咎ム可ラズ大和俗訓

三 子弟ヲ教フルニハ只從容トシテ嚴正ニ教ヘ幾度モ繰返シ漸ク告ゲ戒ムベシ童子訓

三 人ノ短ヲ諫ムルハ語切直ナリト雖モ能ク顏ヲ温ニシ氣ヲ下セバ縦ヒ聽カレザルモ亦未ダ必怒ラレズ世範

四 凡人ノ事ヲ謀ルヤ日用至微ノ者ト雖モ亦須ク齟齬シテ成リ難ク或ハ幾ンド成テ敗レ既ニ敗レテ而シテ復成ルベシ斯ノ如クニシテ然シテ後其成ルヤ永久平寧ニシ

四 一事逆ヘバ心ニ憎ミ一言拂レバ心ニ銜ム然ルガ若キ

者ハ四海ノ内樂ム地ナク百年ノ内泰

キ時ナシ馮時可

テ復後患ナシ若シ偶然ニ成リ易キハ後必意ヲ如クナラザル者アリ静ニ此ノ理ヲ思ハバ以テ懷ヲ寬ニス可シ同上

四 善待ノ誠ニ真心ヨリ出ルモノハ之ヲ記説スル能ハズト雖モ之ニ感觸スルモノ縱令熟知ノ人ニ非ガレモ忽懇親ノ意ヲ生ズルニ至ルイルウギンク

五 嚴ニシテ和ラガハ衆ニ處ルノ道ナリ嚴ニ非ザレバ以テ已ヲ持ス可ラズ和ニ非ザレバ以テ物ニ接ス可ラズ初學知要

陳寔ハ上ノ君ヲ依ス

率ユ一年歳荒ル盜アリ夜其室ニ入り梁上ニ止ル寔陰カニ之ヲ見テ子孫ヲ呼ヒ之ニ訓ヘテ曰ク夫レ入自ラ勉メザルベカラズ不善ヲナス人ト雖モ未ダ必ズシモ素ヨリ惡ナルニアラズ習フテ以テ性ト成リ此ノ如キニ至ル梁上ノ君子是レナリト盜驚キテ地ニ投シ叩頭シテ罪ニ伏ス寔曰ク君ノ狀貌ヲ觀ルニ惡人ニ似ズ當ニ貧困ニ由

五 事ニ應ジ物ニ接スルニハ皆須ク胸裏ノ和平ヲ要スベシ

和平ナレバ則忤厲粗暴ノ氣自然ニ消除ス

慎思錄

ルナルマシ乃チ絹一匹ヲ遺ル是ヨリ一縣盜賊ナシト云

五 君子言ヲ出シ氣ヲ吐クニハ宜ク和平ナル可シ峻厲ナ

ル可テズ和平ナレバ則理明ニシテ聞ク者心ニ快シ峻厲ナレバ則辭氣激シテ聽ク者耳ニ逆非自成

五 心常ニ沈静ナレバ則義理ヲ含蓄スルテ深クシテ而シテ事ニ應ズルニカアリ 讀書錄

六 青天白日和風慶雲ハ特ニ人喜色多キノミナラズ即チ鳥鵲モ亦皆好音アリ若シ暴風怒雨疾雷閃電ニハ鳥鵲皆

林ニ投ジ人モ亦戸ヲ閉ツ乘戾ノ感此ニ至ルガ故ニ君子ハ太和元氣ヲ以テ主トス故ニ曰ク執拘乘戾ナル者ハ薄

福ノ人ナリト 身世準繩

六 兩君子ニハ争ヒナシ相讓ルガ故ナリ一君子一小人ハ争フ_一無シ君子容ル_一有ルガ故ナリ争フ者ハ兩小人ナリ呂叔簡

六 支那戰國ノ時趙國ニ廉頗
藺相如ノ二人アリ頗ハ趙ノ
將軍ニテ軍功甚ダ多シ相如
嘗テ秦ニ使シテ大功ヲ立テ
シニ依リ遠ニ上卿ニ擢デラ
レ位頗ノ上ニ班ス頗大ニ怒
リテ謂ク我が攻戰ノ大功勝
テ計フベカラズ然ルニ今相
如ハ微賤ヨリ起リテ一旦我

六 偏固ノ見ヲ執テ

義理ノ正ヲ害スル

一勿レ愛憎ニ任セ

一勿レ臧否ノ實ヲ亂ス

一勿レヨシアシ張履祥

上ニアルハ何ツヤ我若シ彼ニ遇ハ_一必_一之ヲ辱メント
相如之ヲ聞キテ病ト稱シ朝セザリシ故家人相如ヲ以テ
怯トシ切ニ之ヲ諫ム相如曰ク我先ニ秦ニ使シ其王ヲ朝
廷ニテ叱シタリ何ヅ一人ノ廉將軍ヲ畏レンヤ然レドモ
彼亦英雄ナリ今秦強シト雖モ趙ヲ攻メザル所以ハ我ト
廉將軍トアルヲ以テナリ若シ兩雄相闘ハ_一俱ニ全キコ
トヲ得ベカラズ然ルレハ趙國隨テ危カルベシワガ彼ヲ
避クル所以ハ國ノ為メヲ思ヘバナリト頗之ヲ聞キテ大
ニ羞ヂ相如ノ家ニ到リテ罪ヲ謝シ爾後兩人無二ノ朋友
トナリ力ヲ協セテ事ヲ謀リシカバ趙國愈堅固ニナリシ
ト云フ

七 其心ヲ大ニシテ物ヲ容レ其心ヲ虚クシテ善ヲ受ケ其

心ヲ平ニシテ事ヲ論ジ其心ヲ潛メテ理ヲ觀其心ヲ定メテ變ニ應ズベシ 續讀書錄

⑦人ノ心ヲ存スルヲ忠厚ナル者ハ必言ヲ立ツルヲ忠厚ナリ言ヲ立ツルヲ忠厚ナル者ハ必事ヲ作スルヲ忠厚ナリ

身ハ必忠厚ノ福ヲ享ケ子孫必忠厚ノ報ヲ食ム 五種遠規

⑦西語ニ曰ク水極狭ケレドモ水必溢ル又曰ク水派アル

井戸ハ涸ルハコト稀ナリ

⑦二國際アルハ相害スル

ヲ主トシ互ニ兵ヲ遣リ地ヲ掠メ軍艦ヲ縱テ攻畧スルハ

常ナリ此禍害ノ心盛シナル

ハニ敵ヲ寛大ニ交接スルモ

ノハ實ニ大器ト稱スベキナリ

千七百四十六年英國西班牙ト隙アリテ互ニ船舶ヲ奪

ヒタリ會倫敦ノ商船大價ノ商品ヲ積ミテヤマイカトキ

ウバノ間ニテ船ヲ損シタルガ舟人只生命ヲ保タントシテ

奮トナリ船ヲ奪ハルハ決心シ敵地西班牙ノ領地ハ

パンナニ往キ鎮尹ニ船ヲ與ヘテ虜人ノ如ク深刻ニ待遇セラレザルヲ願ヒタリ鎮尹

之ヲ慰勞シテ曰ク汝抵抗ノ心ヲ以テ來ラバ汝ヲ収ヘルハ當然ナリ今汝窮迫シテ來ルモ

ノナレバ人情何ゾ汝ヲ濟ハズシテ害ヲ加ヘンヤ汝ニ我港ヲ假スベシ宜ク船ヲ

敵國ノ録 尹漢人ヲ 宥恕セル

⑦海濶クシテ魚ノ躍ルニ從カセ天空クシテ鳥ノ飛ブニ

任カス大丈夫此ノ度量ナカル可ラス

身世準繩

脩シ去ルベシト因テ英人船ヲ脩シ了リ將ニ去ントスル
 片鎮尹又西班牙ノ軍艦ニ害セラル、ヲ防ン爲メニ國界
 フレムダヲ出ルノ印鑑ヲ與ヘタリ故ヲ以テ無難ニシテ
 倫敦ニ歸リタリ「ラ」フエートル曰ク窘ムベキ機會ヲ得
 テ大器ニ之ヲ逸レシムルハ非常ノ人ト云フベシ

第三 慎言

① 百行ノ本ハ一言ナリ一言
 ニシテ適ヘバ以テ敵ヲ却ク
 ベシ一言ニシテ得レバ以テ
 國ヲ保ツベシ 說苑

① 言ヲ慎ニ行ヲ謹
 ムハ是已ヲ修ムル

第一ノ事ナリ

薛文清

① 戒ム爾多言スル勿レ多
 言ハ衆ノ忌ム所ナリ苟モ極
 機ヲ慎マザレバ災厄此ヨリ始マル是非毀譽ノ間適ニ身
 ノ累ヲ爲スニ足レリ 范魯公ノ詩

① 一言ヲ發スルノ平易躁妄ヲ觀テ便チ其徳ノ厚薄養フ
 所ノ淺深ヲ見ル 朱子

① 晋ノ王獻之ト云フ人嘗テ其兄徽之操之ト俱ニ謝安カ
 宅ニ至ル時二兄ハ俗事ヲ言フ多ク獻之ハ止々寒温ノ
 挨拶ヲナス而已ニシテ出ツ客謝安ニ向ヒテ王氏兄弟ノ
 優劣ヲ問フ謝安曰ク小者佳ナリト客其故ヲ問フ謝安曰
 ク吉人ノ辭ハ寡シ其言フノ少キヲ以テ之ヲ知ルト
 ② 左右ノ言ハ輕シク信ズ可ラズ必是々實ヲ審カニセヨ

○道理ナキ正シカラザル札守リ祈禱ナドヲ妄ニ信ジテ

迷ヘルヲ禁ズベシ幼ナク若

キ時ヨリ个様ノ事ニ心惑ヒ

ヌレバ其心癖ニナリテ一生

其迷ヒ解ケザル者ナリ神祇

ハ畏レ貴ビ敬ヒテ速ガカル

ベシ狎レ近ヅキテ穢シ侮ル

可ラズ重子訓

○二神佛ノ奇特モ俗人ノ語リ

傳ワルトハ虚言多シ凡正法

ニハ奇怪ナシ奇怪アルハ正

法ニ非ス奇怪ナリトテ貴ガ

ベカラズ大和俗訓

○三言ヲ以テ人ニ媚ビル者ハ

但ガ人ノ已ヲ悦バントテ欲

シテ人ノ已ヲ輕ンズルトテ

知ラズ言ヲ以テ自ラ誇ル者

ハ但ガ人ノ已ヲ羨マントテ

欲シテ人ノ已ヲ笑フトテ知

ラズ輕ンジテ且笑ハル辱焉

ヨリ大ナルハ莫シ多言何ゾ

益アラシヤ洗心輯要

○三好ンデ人ノ非ヲ議スル者

○二妄ニ人ノ言ニ任

セテ語り傳フベカ

ラズ人ノ胡亂ナル

言ヲ信ジテ人ニ語

レバ我モ亦虚言ヲ

曰フノ罪アリ大和俗訓

○三古人ノ是非ハ之

ヲ品評スル可ナリ

今人ノ好惡ハ之ヲ

妄議スル不可ナリ

恨ヲ取ルハ多ク妄

宋濂ハ短事ハガハル事

ハ其心慘刺ニシテ忠厚ナラザルヲ見ルベシ 慎思録

議ニ在リ 言志 奎録

三 明ノ宋濂ハ太祖ヨリ廷臣ノ臧否ヲ問ハル、毎ニ唯善者ノミヲ舉ゲテ答タリ太祖曰ク汝ノ否ナリト思フモノハ誰ナルヤト答テ曰ク廷臣ノ中ニテ善ナル者ハ常ニ臣ト交ハル故ニ其人ヲ知レ氏否ナル者ハ臣ト交ラザル故ニ縱令有トモ知ラザルナリト決シテ他人ヲ毀ラザリシ

四 人ノ世ニ在ルヤ必愛憎ノ私アリ是ヲ以テ褒譽實ニ過グル者アリ猜忌冤ヲ爲ス者アリ故ニ人ノ毀譽往々理ニ當ラザル者多シ毀譽ハ妄ニ信不可ラバ古人曰ク公論百

年ニシテ後定マルト豈然ラズヤ 慎思録

四 人ヲ譽メ毀ルルヲ謹テ過不及ナカルベシ譽ム可ラザル人ヲ譽メ毀ル可ラザル人ヲ毀リ或ハ譽メ過ゴシ毀リ過ゴスハ共ニ不智ナリ 大和俗

五 妄語セズ多語セズ人ノ隱事ヲ道ハズ人ノ微過ヲ摘セズ已ニ干涉ナキ事ヲ言ハズ人ノ關係アル事ヲ言ハズ人ヲ論ズルニ短ヲ拾フテ長ヲ

四 人ヲ譽ムル一實ニ過グル者ハ固ヨ

リ不知トスベシ况ンヤ人ヲ毀リテ其實ニ中ラザル者ヲ 慎思録

五 人ノ善ヲ見テハ人ニ對シ稱揚シテ

棄ツル一無レ已ヲ論ズルニ
枝ニ登テ本ヲ忘ル、一無シ

劉氏人譜類記

已マザレ人ノ過ヲ

⑤ 君ト言ヘバ臣下ヲ使フ

ヲ言ヒ高位ノ人ト言ヘバ君
ニ事フル一ヲ言ヒ老者ト言

聞テハ口ヲ絶チ人
ニ對シテ言ハザレ

ヘバ子弟ヲ使フ一ヲ言ヒ幼

揚椒山遺囑

者ト言ヘバ父兄ニ孝弟スル

一ヲ言ヒ衆人ト言ヘバ忠信

⑥ 人ノ隱事ヲ言ヒ

ト言ヘバ忠信ヲ言フ札記

人ノ短ヲ誇リ人ノ

第一ノ輕薄ナリ唯徳ヲ失フ

傳家寶

事ヲ難ジ人ノ耻ヲ

⑥ 多言尤モ事ヲ害シ徳ヲ敗

ル且ラク快ニ乗ジテ妄ニ人
ヲ毀譽ス可ラズ慎思錄

訐ク者ハ終ニ禍ヲ

⑥ 西諺ニ曰ク多言ハ多失ノ
種

至ル十訓抄

⑥ 呂叔簡曰ク余少時曾テ密

ニスベキノ語ヲ洩セリ先君
之ヲ責ム對テ曰ク已ニ聞ク
者ヲ戒メテ洩ラス一勿ラシ

⑦ 假令多言

言如葉草よ

呂叔簡
附先

△ト先君曰ク子ニシテ子ノ
 ロヲ必スル一能ハズ而シテ
 能ク人ノロヲ必センヤ且人
 ヲ戒ムルト己ヲ戒ムルト孰
 カ難キゾ小子之ヲ慎メヨト
 ⑦言ハ猶射ノ如シ矢括既ニ
 弦ヲ離ルレバ悔ユル所アリ
 ト雖モ從テ追フ可ラズ説苑
 ⑦白圭ノ玷ゲタルハ尚ホ磨リ可シ斯ノ言ノ玷ゲタルハ
 爲サム可ラス 詩經

第四 愛敬

①人ニ交ハルニハ貴賤ト親
 疎トニヨラズ愛敬ヲ旨トス
 ベシ 大和俗訓

①漢ノ李廣ハ武帝ノ時ノ將
 ナリ廉ニシテ人ヲ愛シ賞ヲ
 得レハ輒^ナ其麾下ニ分與シ飲
 食モ亦士卒ト共ニセリ故ニ
 二千石タルヲ四十餘年ニシ
 テ家ニ餘財無シ其軍ヲ行ル
 ヲ飲食ニ乏絶ノ處ニ至レバ
 水ヲ見ルハ士卒盡ク飲マザ
 レバ敢テ食ヲ嘗メズ此ヲ以

風たちて
 露のはの身に
 おき所おき
 心學道歌集

①善ヲ行フニハ愛
 敬ヲ本トスベシ愛
 トハ人ヲ憐ミテ疎
 ソカニセザルナリ
 敬トハ人ヲ敬ヒテ
 侮ラザルナリ 家道訓

事貴士平
 フ愛撫ス
 ル事

テ士卒其用ヲ為ス一ヲ樂メリ廣ノ死スルニ及ビテ一軍皆哭シ百姓皆為メニ涙ヲ垂レシト云フ

①愛ナケレバ則刺薄ナリ敬ナケレバ則侮慢ナリ初學知要

①敬ナレバ則心地嚴肅ニ精神自ラ重クシテ理明ラメ易シ不敬ナレバ則心地散亂精神昏惰ニシテ書モ亦愈讀ミ

難ク理モ亦愈窮メ難シ居業錄

②汝ノ姉妹ヲ丁寧ニ接遇シ其溫柔ノ性ヲ尊重シ其汝ノ心ヲ感化セルヲ謝ス可シ又

姉妹ハ性質軟弱ニシテ激覺シ易キモノナレバ其憂痛ヲ慰勞シテ常ニ親愛スベシベリ

②弟孩提ノ童モ其親ヲ愛スル一ヲ知ラザルハ無シ其長ズルニ及ビテハ其兄ヲ敬スル一ヲ知ラザルハ無シ孟子

②老者ヲ見テハ之ヲ敬シ幼者ヲ見テハ之ヲ愛セヨ朱子家訓抄

②三黨親族ハ遠近親疎等シカラザルアリト雖モ皆我關切ノ人ナリ均シク當ニ之ヲ待ツニ親愛ヲ以テシ之ヲ處スルニ忠誠ヲ以テスベシ習是編

②先祖ヲ尊ビ時節ノ祭禮惰ルベカラズ親戚ヲ厚ク親ムベシ親戚ニ疎クシテ外人ニ親ムハ逆ナリ家道訓

②德アル者ハソノ年我ヨリ下レルト雖モ我必コレヲ尊

② 祖父母最尊ト
ス次ギハ則伯叔父
母又次ギニシテハ

兄及姉皆我尊族
ナリ宜ク敬ヒテ怠
ル勿レ治家格言

朱子家訓抄

③年老イタル者ト年若キ者ト同ク物ヲ荷ヒ行ク時ハ何レモ輕キ荷ナラバ老イタル人ノ荷ヲ取リ一ツニシテ若キ者一人シテ持ツベシ若シ重キ荷ニテ一人シテ持ツ可ラズバ若キ者ノ荷ヲ重クシ少シ分チテ老イタル人ニ持タスベシ僅小事

④凡人心畏ル、所ヲ知ラザル可ラズ古ノ君子内ハ則父母尊長ヲ畏レ外ハ則師傅友

③**年齢吾父ト同輩ナル人ヲバ父ニ準ジテ敬フベシ吾兄ト同輩ナル人ヲバ兄ニ準ジテ敬フベシ**

シ六論行義大意

文左衛門能く童子ノ非ヲ矯メテ

朋ヲ畏レ仰ギテハ則天ヲ畏レ俯シテハ則人ヲ畏ル身世準繩

④文左衛門ト云フ者アリ貧賤ノ家ニ生レタリシガ幼少ノ時ヨリ行ヲ正シクシ業ヲ勉メテ終ニ富貴ノ身トナリ又其一子ハ毎日學校ニ通ヒケルカ教師ノ教ヲ守ラズシテ言葉ヲ謹マザリケレバ父左ハ痛ク之ヲ愁ヒテ大ナル

甕ニツヲ備ヘ置キ甲ノ甕ニハ貴ノ字ヲ記シ乙ノ甕ニハ賤ノ字ヲ記シ子ニ約シテ曰ク汝今ヨリ善キ言葉ノアル片ハ甲ノ甕ニ金貨一ヲ入レ惡シキ言葉ノアル片ハ乙ノ

④**子孫年少キ者父祖兄長ノ咎ヲ受ケテ怒ニ遇ハバ其父祖**

甕ニ銀貨一ヲ入レント翌年ノ正月元日ニ至リ其子ヲ呼テニツノ甕ヲ前ニ置キ此甕ニ記シタル文字ノ中何ヲ欲スルカト問ヒケレハ貴ヲ欲スルモ賤ヲ欲セザルナリト

言ノ是非ヲ擇バ
ス畏レ謹ミテ聽ク
ベシ 童子訓

答フ父ノ曰ク試ニ此蓋ヲ開キ見ヨト童子則之ヲ開クニ甲ノ甕ニハ二三ノ金貨アルノミニシテ乙ノ甕ニハ銀貨充テ満タリ父曰ク其充滿シタル銀貨ノ數ハ汝ノ惡シキ言葉ニシテ二三ノ金貨ハ其善キ言葉ナリ常々斯ル惡シキ言葉ノミヲツカヘバ如何デ貴キ人ニナリ得ベキ汝ハ親ヲ辱カシムルモノナレバ今日ヲ限りニ親子ノ縁ヲ切

ルベシト言ヒケレバ童子ハ深ク耻ヲ恐レテ其罪ヲ謝ス其後父ハ此等ノ手ダテヲ以テ童子ヲ戒メケレバイツシカ品行次第ニ改マリ成人ノ後家ヲ相續シテ富貴ニナリシト云フ

④年若カクテ未ダ世變ヲ知ラズ又智慮ナキ人ハ老人ノ言ハ迂遠ニシテ時勢ニ合ハズト思ヒ父祖ヲ蔑ニシ易シ年若キ者ハ假令其人オカアリテモ未ダ世變ヲ知ラズ智慮熟セザレバ老人ノ愚カナルニモ及バズ 家道訓

⑤凡人トシテ身ヲ立テ已ヲ行ヒ事ニ應シ物ニ接スル所ヲ以テ誠敬ヨリ大ナルハ莫シ誠トハ何ゾ自ラ欺カズ妄ナラザルノ謂ナリ敬トハ何ゾ怠慢ナラズ放蕩ナラザルノ

五 君ニ事フルハ親

謂ナリ 朱子

⑤ 敬ハ徳ノ聚マル所ナリ敬ナレバ衆善畢ク集マル不敬ナレバ則怠惰放僻隨テ至リ而シテ徳敗ル、ナリ 居業錄

⑤ 人ニ接ハルニハ固ヨリ愛敬ヲ以テ道トス然レモ信實ニシテ欺カザルニ出デザレバ則其顔ヲ温ニシ顔ヲ恭クスル所徒ニ虚飾トナル何ダ以テ愛敬トスルニ足ランヤ 初學知要

⑤ 官長ヲ視ルハ猶父兄ノ如ク宜ク敬順ヲ主トスベシ 言志晚錄

⑥ 信愛望ノ三ノ者ハ當ニ常ニ人心ニ在ルヘシ就中愛ヲ最大ト爲マハウルス

⑥ 親シキ人ヲ愛シ貴キ人ヲ敬フハ言フニ及バズ疎キ路人ニ對スル其分ニ隨ヒテ愛敬スベシ憎ミ侮ルニカラズ疎キ親シキニ由リ貴キ賤シキニ隨ヒテ愛敬スル厚薄ハ

ニ事アルが如ク官長ニ事アルハ兄ニ事アルが如ク同僚ニ與ミスルハ家人ノ如クス 呂氏童蒙訓

⑥ 郷人ニ處スルハ

皆當ニ敬シテ之ヲ愛スベシ三尺ノ童子ト雖モ亦當ニ誠心ヲ以テ之ヲ愛スベシ侮慢ス可ラス

薛文清

アルベケレド愛敬セザル
ナカルベシ大和俗訓

楊周火三
人癡人ヲ
梅り命ヲ
失フ語

七保靖州ノ楊大王周錢火兒
三人一ノ癡者ト同ク雨ヲ崖
下ニ避ク俄ニシテ虎其前ニ
至ル三人共ニ癡者ヲ推シ出
シ以テ虎ニ當ツ然ルニ不意
ニ崖忽崩レ虎驚キテ去ル茲
ヲ以テ癡人ハ反テ免ル、
ヲ得三人ハ俱ニ壓死セリ此
人ヲ損シ己ヲ利セシ報ナリ
七不智不才ノ人ト雖モ必勝

七不肖ヲ以テ人ヲ
待テバ愚者ト雖モ
甘ンゼズ非禮ヲ以
テ人ヲ處スレバ賤
者ト雖モ亦怨ム

習是編

グレテ得タル所アリ智者ハ其得タル所ヲ取りテ得ザル
所ヲ怨ス故ニ天下ニ棄人ナシ大和俗訓

七親戚ヲ親マザル者ハ他人ニ於ケルモ亦疎薄ナリ往事
ヲ追ハサル者ハ當務ニ於ケルモ亦苟且ナリ凡交ハリノ
道ハ厚ノ字信ノ字ヲ忘ル、コト勿レ言志差録

第五 齊家

一其家ヲ齊ヘント欲スル者
ハ先ツ其身ヲ修ム其身ヲ修
メント欲スル者ハ先ツ其心
ヲ正クス大學

一一家ノ治マラガ
ルハ一身ノ修マラ

①心ヲ正クストハ心ヨリ起ル所ノ喜怒哀樂愛惡欲ノ七情善キ程ニ過不及ナクシテ片落チザルヲ云フ喜アベクシテ喜ビ其喜ビ過スベカラズ怒ルベクシテ怒リ其怒リ過スベカラズ自餘モ亦斯ノ如クナルベシ七情過不及ナクシテ片落チザレバ心ノ内滞リナクシテ常ニ和平ナリ是心正シキナリ 大和俗訓

ガルヨリ起ル一身ノ修マラザルハ一心ノ正シカラザルニ在リ 良齋閑話

②倫理ヲ正シクシ恩義ヲ篤クスルハ家人ノ道ナリ 近思錄
③安政中幕府ノ麾下ニ松田嘉平次ト云フ人アリ其弟莊

嘉平次 莊太郎 同姓ニ殊セシムル註

太郎同族内藤氏ヲ繼ク莊太郎夫妻不幸ニシテ早ク没シ其存スル者ハ只八歳ノ孤女一人ノミ嘉平次因リテ之ヲ己ガ家ニ養育セリ嘉平次モ亦一女アリ姪女ヨリ長ズル一ニ歳ナリ父母ノ姪女ヲ厚待スルヲ見テ相親愛スル一真ノ姉妹モ番ナラズ嘉平次既ニ老イ女モ亦長ジ而シテ未ダ嗣子アラザレヲ以テ其妻頻リニ他家ノ子ヲ養ヒ其女ニ妻ハセン一ヲ勸ム嘉平次夫妻素ヨリ資質温厚ニシテ其女モ伶俐ナル故ニ爲ノニ誓ヲ求ムル者少ナカラズ然レ嘉平次都テ之ニ應ゼズ意考フルアル者ノ如シ妻

②父慈ナルハ父子福ナリ子孝ナルハ子福ナリ父慈ニ

惟ンテ曰ク期失フベカラズ
 何ゾ之ヲ拒マル、ヤト嘉平
 次曰ク婚親ハ男女ノ大事吾
 女年既ニ長ズ何ゾ妄ニ之ヲ
 拒マン唯未ダ遽カニ之ニ應
 ゼザル所以ノ者ハ吾女ト姪
 トヲシテ同時ニ佳婿ヲ得セシ
 ノント欲スルノミ吾弟早
 ク亡ビ只此ノ一女アリ其年ハ
 吾女ヨリ少カシトスルモ
 情義ヲ酌メバ宜シク姪女ヲ
 先ニシテ吾女ヲ後ニスヘシ
 故ニ今同時ニ二人ノ佳婿ヲ
 得テ同時ニ婿ヲ爲サシメハ
 吾ハ地下ノ亡弟ニ對シテ友愛
 ノ義ヲ失ハザルベク汝等
 吾女ヲ先ニシテ姪女ヲ後ニ
 スルノ人言ヲ受クルトナ

子孝ナレハ則家道
 隆ナリ之ヲ福ト謂
 ハザルヲ得ンヤ
 羅豫
 章

カルベシト妻之ヲ聽キ大ニ嘆服シ其女ニ婚ヲ促ス
 猶豫セリ後數年二女果シテ同時ニ佳婿ヲ得テ友愛益深
 カリシト云ノ

②家長禮ヲ知レバ男女勤儉ナリ假令衰門ト雖モ亦必興
 ルアリ其一時ノ貧富ハ未ダ論バルニ足ラズ神瑜

②父ハ父タリ子ハ子タリ弟ハ弟タリ夫ハ夫タリ婦ハ婦
 タリ而シテ家道正シ易經

③凡家長トナリテハ必謹ンテ禮法ヲ守リ以テ群子弟及
 ビ家衆ヲ御シ之ニ分ツニ職

ヲ以テシ之ニ授クルニ事ヲ
 以テセヨ呂家雜儀

③家人ノ害ハ卑幼各其無限

③ 一家内老幼男
 女個々規矩禮法

ノ私情ヲ恣ニシ長上ノ人其
意ニマカセテ之ヲ禁セザル
ヨリ大ナルハ莫シ呂叔簡

三凡ソ家ヲ治ムルニ財ヲ用
フル法ヲ知テ堅ク慎ミ守ル
ヲ要トス之ヲ知テ守ルト知
ラズシテ守ラザルトハ家ノ

盛衰存亡ノ本ニテ其係ル所最重キヲナレバ常ニ心ヲ用
ヒ能ク其法ヲ知テ守ルベシ家道訓

四人ノ父子或ハ各其道ヲ盡スヲ思ハズシテ只互ニ備
ハラントテ相責ムルハ不和ヲ啓クノ漸ナリ若シ各能
ク自ラ反思セバ則平和無事ナラン世範

張公藝忍
字百ヲ書
スル事

四我心ニ合ヒタル者ヲ偏
ニ愛シ氣ニ合ハザル者ヲバ
偏ニ惡ムハ是愛憎ノ私ナリ
此ノ如クスレバ人ニ施スニ
過不及アリテ公ナラズ大和
俗訓
四唐ノ張公藝九世同居ス北
齊隋唐皆其門ニ旌表ス麟德
中高宗泰山ニ封ズルトキ其
宅ニ幸シ親ク其一族ヲ親睦
スル所以ノ道ヲ問フ公藝再
拜頓首シテ紙筆ヲ請ヒ忍ノ字百餘ヲ書シテ以テ上ル其
意ニ以為ラク宗族ノ協ハザル所以ハ其尊長ノ衣食或ハ

ナケレバ眼前ハ旺
盛ナリト雖モ便チ
是衰敗ノ景象ナリ
世範

四人行ト我心ニ
合ハザルトモ互ニ
堪忍シテ恨ミ怒ラ
ザレバ一家ノ内和
ラギ親ム家道訓

拘シカラザル一アリ卑幼ノ禮節或ハ備ハラザル一アリ
テ忍ブ能ハズ互ニ相責望スルニ由テ遂ニ乖争ヲ生ズ苟
モ長幼卑尊皆能ク相共ニ之ヲ忍ベバ則家道雍睦ス

⑤ 癡ナラズ聾ナラザレバ家翁ト爲ラズ古語

⑤ 人ノ兄弟和睦セズシテ家
ヲ破ルニ至ル者ハ或ハ父母
愛憎ノ偏頗ナルニ由ル衣服
飲食言語動靜必愛スル所ニ
厚クシテ憎ム所ニ薄クス愛
セラル、者ハ意氣日ニ横マ
マニ憎マル、者ハ心平ナル
能ハズ久シキヲ積ムノ後遂

⑤ 婦人ト小人トノ
言奴婢ノ讒言間言
ヲ聞ク可ラズ父子
兄弟夫婦至親ナ

ニ深讐ト成ル所謂之ヲ愛ス
ル者ハ却テ之ヲ害スル所以
ナリ苟モ父母其愛スル所ヲ
均クセバ兄弟自ラ和睦シ以
テ相兩全ナルベシ豈甚善カ
ラズヤ世範

ルモ是等ノ人ノ間
言ヲ信スレバ必不
和ニナル同上

⑥ 西諺ニ曰ク親愛ハ過失ヲ
見ズ

⑥ 我能ク勤メバ衆

⑥ 兄弟子姪貧富ノ厚薄同シ
カラザルアリ富者既ニ獨善
クスルノ心ヲ懐キ且多クハ
驕傲ナリ貧者ハ自ラ勉ムル

何ゾ敢テ情ラン我
能ク儉ナラバ衆何

ノ心ヲ生セズ且多クハ妬嫉
 ス此互ニ以テ和セザル所以
 ナリ若シ富メル者時ニ其餘
 ヲ分チ惠ミテ貪者ノ恩ヲ知
 ラザルヲ鄙ヘズ貪者ハ自ラ
 定マレル分限アルヲ知テ
 其必分チ惠マレントヲ望マ
 ズンバ則亦何ノ争ヒカ之ヲ
 ラン世範

大徳公叙
 ヲ大盤ニ
 盛リ流ラ
 録スル語

七徳川台徳公ノ乳媪某ハ三
 河ノ人ナリ然レモ姓氏ヲ詳ニセズ人呼ンテ大婆公ト云
 媪賢ニシテ大夫ノ風アリ公乳育ノ故ヲ以テ之レヲ祝

ゾ敢テ奢ラン我能
 ク公ナラバ衆何ゾ
 敢テ私セン我能ク
 誠ナラバ衆何ゾ敢
 テ偽ラン願體集

ル一阿母ノ如ク眷遇ノ渥キ老ニ至テ衰ヘズ媪他ノ嗜好
 無シ但毎月二三次轎夫僕隸ヲ盡ク厨下ニ致シ而メ飯ヲ
 大盤ニ崇クシ一々之レヲ椀ニ裝シ身親ラ饋シテ以テ之
 レヲ供ス奴輩感戴シ其ノ放籓ヲ極メテ止ム此レヲ以テ
 平生ノ娛樂ト為ス一日本多正信來リ候ス其ノ親饋ヲ見
 テ驚キテ曰ク大婆公侍婢使令足ラザルニ非ズ何ゾ若シ
 テ自ラ饋スルコトヲ為ル媪毅然トシテ整ヘテ曰ク今來
 人子ヲ謂ツテ驕奢稍甚シトス妾之レヲ聞キテ敢テ信セ
 ス乃チ今ニシテ其誣フルニ
 アラザルヲ知ル子マタ彌ハ
 郎タルノ時ヲ忘レタルカ妾
 昔シ微ナル時一飯ノ恩ヲ人

七家ニ居ルニ四ツ
 ノ本アリ讀書ノ家

ニ施サント欲スルモ且ツ得
 ベカラズ今ヤ此ノ饗ヲ設ケ
 テ奴輩數十人ヲシテ快然飽
 食セシムルモノハ悉ク皆邦
 家ノ恩ナリ獨リ微賤ノ時ヲ
 忘レテ可ナランヤ子天下ノ
 大老ト爲リ是レヲ之レ問ハ
 スシテ徒勞ヲ以テ擬セラル
 吾レ是レヲ以テ子ノ驕奢ニ
 シテ自省スル能ハザルヲ信
 ズルナリ正信赧然言ナクシテ去ル
 大婆疾ヒ病ナルニ及テ公親ヲ臨ンデ之レヲ視ル且ツ言

ヲ起スノ本勤儉ハ
 家ヲ治ムルノ本和
 順ハ家ヲ齊フルノ
 本理ニ徇フハ家ヲ
 保ツノ本ナリ 朱子

大婆
 ノ流竄ヲ
 怨ミサル
 事

ハント欲スル所ヲ問フ媪泣テ曰ク妾復タ何ヲカ言ハン
 低ガ鄙心願ハクバ殿下克ク太公ノ遺訓ヲ遵奉シ務メテ
 心ヲ政治ニ致シ後人ヲシテ間然スル所ナカラシメヨ公
 又タ問フ果シテ私請スル所無キヤ媪ノ曰ク殿下ノ眷遇
 此ノ如シ今何ゾ足ラザル所アリテ而シテ敢テ請フモノ
 アラン公將サニ起ントス媪遽ニ呼テ曰ク主公主公前ニ
 云云セラル、所以ノ者ハ妾之レヲ得タリ賤息ノ流竄ヲ
 以テ念ヲ爲スニアラザルヲ得ンヤ抑々彼レ自ラ罪ヲ犯
 シテ此コニ至ル妾ニ於テ絲
 毫モ怨ル所ナシ今終ニ臨ミ
 乳育ノ故ヲ以テ曲ゲテ宥典
 ニ從ハツ是私恩ヲ擧ゲテ公

一國結合一致
 スルハ政府ヨリ起

法ヲ廢スルナリ大ニ妾ガ冥途ノ行ヲ妨グ切ニ以テ慮ヲ勞スル勿レト言畢テ瞑ス

ルモノニ非ズシテ

⑦凡家ノ主トシテ家ヲ治ムレハ先ツ父母ニ善ク事フル

一家團欒ノ中ヨリ

ヲ第一ノ勤メトシ次ギニ妻ヲ誘キ子弟ヲ教フルヲ以テ要トシ其次ギニ下部ヲ使フ

生ズ
カルテルウード

ニ心ヲ用ヒテ禮法ヲ正シクスベシ困シメ悔リ虐使スベカラズ 家道制

テ而シテ後

⑧心正シクシテ而シテ後身修マル身修マリテ而シテ後家齊フ家齊フテ而シテ後國治マル國治マリテ而シテ後天下平ナリ 大學

テ而シテ後

第六 自守

①心一タヒ鬆散スレバ万事收拾ス可ラズ心一タビ疎忍ナレバ万事耳目ニ入ラズ

①心ハ身ノ王ニシテ万事ノ本根ナリ

呂新吾語錄

①自ラ疆メテ息マザル時ニハ心地光々明々ニシテ何ノ妄念情思アラシク何ノ嬰累罰相アラシク

此故ニ心正シカラ

②道ニ志ス者ハ須ク誠敬ヲ以テ其志ヲ守ルベシ然ラザ

ガレバ身修マラズ

以テ其志ヲ守ルベシ然ラザ

家ヲ齊ヘ人ヲ治メ

レハ則流蕩放荒シテ道ヲ忘
ル終ニ亦必亡フノミ 慎思錄

難シ 大和俗訓

②富貴ヲ求メント欲スル者
ハ志ヲ立ツルニ在リ壽福ヲ
求メント欲スル者ハ心ヲ存
スルニ在リ術數ノ説ハ憑ム
ニ足ラザルナリ 醒世格言

②心だままふとの

③人當ニ自信自守スベシ之
ヲ稱譽シ之ヲ榮奉スト雖モ
亦之ガ爲メニ喜ブト加ヘ
ザレ之ヲ毀謗シ之ヲ侮慢ス
ト雖モ亦之ガ爲メニ沮ムト

道よ
かかひなば
祈らばとても
神やほもらん

ヲ加ヘザレ 薛文清

管丞相

③學者ハ庸人ノ毀譽ニ因テ
喜恤ヲ爲ス可ラズ吾行フ所
ノ得失ノ如キハ當ニ聖人ノ
道ヲ以テ準トスベシ苟モ其
行フ所聖人ノ道ト背馳セズ
ンバ世譽テ我ヲ毀ルト雖モ
乃全ヲ求ムルノ毀ナリ以テ
愠トスル所ニ非ズ苟モ聖人
ノ道ト背馳セバ世譽テ我ヲ
譽ムルト雖モ又虞ラザルノ
譽ナリ以テ喜トスル所ニ非

③事ヲ處スルノ法
ハ已ヲ正シクスル
ヲ以テ先キトス理
ニ順ヒテ之ヲ行フ
ベシ人ノ從違ハ必

不 慎思錄

④人心寬平ナレバ則光明ナリ
 狭隘ナレバ則幽暗ナリ
 明ナル者ハ君子ニシテ幽暗ナル者ハ小人ナリ 讀書錄

④凡書ヲ讀ミ及ビ人ニ聽ク者ハ其心ヲ寧靜ニシ其氣ヲ安定ニシ虚心純一ニシテ其他ヲ慮ラズ雜念ノ紛擾ナキヲ要ス此ノ如クナレバ則理會シ得ルヲ分明ニ且記得シテ忘レズ 慎思錄

トス可ラズ 畜德錄

④人心ノ同ジカラ
 ガルハ面ノ如シ人
 毎ニ心異ナレバ人
 ノ爲ス業我心ニ適
 ハザルトテ人ヲ咎

△可ラズ 大和俗訓

④心治マレバ則百節皆安ク
 心擾ルレバ則百節皆乱ル 文中子

④名ト實トハ猶形ト影ノ如キナリ
 德藝周厚ナレバ則名必善ク容色姝麗ナレバ則影必美ナリ
 今身ヲ修メズシテ而シテ令名ヲ世ニ求メンハ猶狼其惡クシテ而シテ妍影ヲ鏡ニ責ムルガ如シ 類氏家訓

⑤熱好ノ心及堅忍ノ心ヨク
 沮喪セル志ヲ挽回スルヲテ徵スベシ アウドール

⑤忍耐ハ剛徳中ニ在テ最美
 ニシテ且貴ク且稀ナリ テ ス

⑥己ヲ處シ物ニ接スルニ常

⑤ 忍耐諸快樂
 ノ根本ニシテ又諸
 權勢根本ナリ

家康、橋下

ニ慢心偽心妬心疑心ヲ懷ク者ハ皆自ラ輕辱ヲ人ニ取ル君子ハ爲ササルナリ世範
六徳川頼宣馬術ニ巧ナリケルガ嘗テ馬ヲ調シテ馳驅ノ際ニ風其帽子ヲ吹キ墜シケルヲ即チ之ヲ捉リテ飛アガ如クニ奔逸セシカバ人贊歎セザルハナシ獨松平總太郎曰ク公ノ騎法ハ未ダ精シカラズト頼宣色ヲ變ジテ之ヲ語リシニ對テ曰ク小田原ノ

役ニ東照公先鋒タリケルニ小橋ノ溪流ニ架スルモノアリケレバ諸將一同ニ家康ハ騎ニ名アレバ彼處ヲ渡ルヲ見ルベシトテ皆出デ、見ルニ東照公ハ橋邊ニ至リ馬ヲ下リ馬丁ニ轡ヲ執ラセ自ラ歩士ニ負ハレ涉リケレバ將士皆晒ヒシニ丹羽長秀曰ク家康ノ善騎ヲ以テ小橋ヲ過グルハ易キ事ナルヲ自ラ貴重シテ危ヲ踐マサルハ天下ノ名騎ナレバナリト稱嘆セシトナリ今君危ヲ踐ミテ技ヲ術フ是騎法ノ未精シカラザルナリト頼宣感喜シ録シ

人將來ノ期望ニ忍耐ニヨリ得ラルベシラスキ

六自ラ重ンセガル者ハ辱ヲ取り自ラ畏レガル者ハ禍ヲ

招ク自ラ満タサル者ハ益ヲ受ケ自ラ足レリトセガル者ハ聞ヲ博クス願體集

小學修身鑑補

卷之十一

五

文

館

テ之ヲ藏ム

(六) 木養フ所アレバ則根本固クシテ枝葉茂リ棟梁ノ材成
 ル水養フ所アレバ則泉源壯ニシテ流脈長ク灌溉ノ利博
 シ人養フ所アレバ則志氣大ニシテ識見明ナリ省心謹言
 (六) 耳能ク聰ニ目能ク明ナルハ吾ノ至寶ナリ若シ之ヲ用
 ヒテ以テ入ノ過失ヲ求メ而シテ之ヲ用ヒ以テ内ヲ照サ
 サレバ是我ノ至寶ヲ以テ徒ニ人ノ用トスルナリ豈惜ム
 可ラズヤ 願 禮 集

1201

小學修身鑑補卷之十一終

明治二十年二月八日版權免許

同 年九月 刻成

定價金三錢五分

福岡縣士族

編輯人

吉田利行

福岡縣福岡區福岡
濱ノ町二十二番地

同縣平民

出版人

右田喜久郎

同縣同區博多掛町
十一番地

小學修身鑑補

卷之十一

